

特別国民体育大会冬季大会「未来へつなぐ八戸国体」が28日に開幕しました。

公会堂で行われた開始式で選手宣誓の際、大岩さんが旗手を務め、新聞に掲載されましたのでご案内します。

大岩さんは500m・1000m・リレーの3種目に出場しますので競技応援をお願いします。

2023年1月29日デリー東北新聞朝刊記事（1面と13面）

闘志 氷溶かすほどに



県勢誓い、熱戦幕開け

「銀盤に 君の軌跡よ 花ひらけ」を大会スロガンに、特別国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会「未来へつなぐ八戸国体」が28日、八戸市で開幕した。青森県でスケート国体が開催されるのは2020年以来3年ぶり。同日市公会堂で開始式が行われ、参加4都府県代表が、水部での備前を誓った。会期は来月5日まで、同市と南部郡で4競技を実施する。

詳細13ページ 関連記事20、21ページ

大会は選手、役員1760人が参加する。このうち、600人が出席した開始式では、八戸聖ラルスラ学同の生徒が各都府県旗を持って陣上を行進。開催地の青森旗を持った生徒は一番最後に入場した。三村市長の開始宣言に続き、日本スケート連盟の伊藤俊彦会長（代読）や室田広治スポーツ庁長官らがあいさつ。開催地を代表し、熊谷雄一八戸市長が練習の成果を發揮し、競技を通じて交流を深め、各会場に笑顔の花を咲かせてほしいと選手に語りかけた。

選手宣誓に臨む青森選手団（左）と旗手を務めた大岩未奈選手（右）。28日、八戸市公会堂。選手宣誓では、アイスホッケー成金選手の最上義典主将、青い森信金が「郷土の代表としてプレーできることに誇りを持ち、氷をも溶かすほどの熱いプレーと熱いハートで戦い抜く」とを誓った。スピードスケート成年女子の大岩未奈選手（フライングス）が選手を鼓舞した。式に先立って行われた歓迎アトラクションでは、龍神社法堂神楽保存会と地元のパンチン「Arries（アリエス）」が登場。迫力ある囃子や伸びやかな演技で、地元国体のスタートに花を添えた。同日は、市内でフィギュアスケートの開始式が始まった。第2日の29日も同競技が行われる。

スピード県勢、気合十分 結団式

〇スピードスケートの青森県選手団は30日の競技開始を前に、YSアリーナ八戸で結団式を行った。選手や監督、役員が出席し、「スケート国体」としては最後となる今大会での飛躍を誓った。

式では、県選手団の米内正明副団長が成年女子500m以下に出場する大岩未奈選手（フライングス）に県旗を引き継ぎ、橋本精一顧問が激励の言葉を述べた。成年男子1000m以下にエントリーした山本大史は「（八戸市協会は）厳しい戦いになるが、優勝だけを目標」と闘志を、成年女子1500m以下に出場予定の木村咲映（八戸市）は「普段通りに調整できている。地の期待に応えたい」と意気込みを述べた。



30日からの本番に向けて気合を上げるスピードスケートの青森県選手団（YSアリーナ八戸）

<29日の競技日程>

- ◆フィギュア第2日（フラット八戸）
 - ▷成年男子ショートプログラム（10・00～13・20）
 - ▷少年男子フリー（13・35～16・50）
 - ▷少年女子フリー（17・50～21・05）
 - ＝滑走順8番・聖前埜乃華（工大一高）

〇スピードスケート会場のYSアリーナ八戸では、青森県業師会アンチドリーニング委員会が28日、練習に訪れた全国の選手たちを対象に、葉などの正しい知識に関する啓発活動を行った。29日まで。

アンチドリーニング正しい知識持とう 県業師会 啓発ブース